



[36ぶらす3と新しい長崎駅]



里信号場・肥前大浦駅間を走行する「36ぶらす3」

36ぶらす3は、JR九州在来線特急の主力車両である787系電車を改造したD&S（デザイン&ストーリー）列車。コンセプトは「九州のすべてが、ぎゅーっと詰まった“走る九州”といえる列車」。5日間かけて九州7県を反時計回りに巡るコース設定となっている。

車両レイアウトは、1号車から3号車までは個室、5、6号車は座席タイプの客室である。また、3号車は17年ぶりにピュッフェが復活した。4号車はマルチカーとして、車内での体験やイベントなどに活用されている。

(写真提供：JR九州)

ある晴れた夏の日、ご縁をいただきJR九州「36ぶらす3」試乗会と西九州新幹線長崎駅の見学会へ。以前訪れたのは在来線ホームがまだ地上にあった頃でした。

36ぶらす3が高架になったホームに入線……、あれ、雰囲気がまるつきり違う！初めて来たような感覚になりました。天井が高く、新幹線ホームへとつながっています。その新幹線側の駅舎は今まさに造り上げている最中で、その一角では、地元の子どもたちにガラススペースを用いて枠の中に自由に配置してもらい、それをもとにガラススクリーンを完成させるといった取り組みもなされるそうです。県外だけでなく地域と結び付きのある新駅舎になると期待が高まります。

一番印象的だったのは、新幹線ホームから見える長崎湾。車止めの向こうには大きく遮るものはありません。さすがは日本最西端の新幹線駅といった眺め。一方で駅前側を見ると、クリーム色と緑色の路面電車がゆっくり走っています。ああ良かった、私が知っている長崎駅です。

街に生き、鉄道の未来に生きる西九州新幹線の長崎駅。2022（令和4）年秋頃のデビューが楽しみです。



個室タイプの1号車



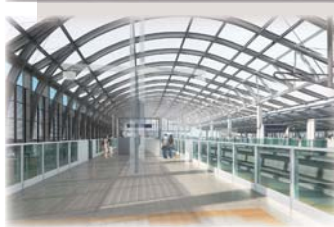
イベント等に利用される4号車



座席タイプの6号車



建設中の長崎駅の外観（撮影：令和3年7月）



長崎駅の外観完成予想パース図（上）と長崎駅のホーム完成予想パース図（左）



建設中の長崎駅のホーム（撮影：令和3年7月）

編集集

後記 「鉄道・運輸機構だより」2021年秋季号をお届けします。

▼巻頭言では、「当機構 改革に向け発進」として改革プランの主な取り組みや成果についてご紹介しています。従前の枠組みの中でしかできないと思ひ込んでいたものを、課題の克服を念頭に、国や他法人の事例を参考にロードマップを当機構自らが作成したものです。

▼本号の特集乗船レポートは、これまでの乗船記事ではなく、新企画の御船印の旅が始まりました。今回は近距離での東京湾一周の旅となりましたが、コロナ禍が収まれば、日本全国の御船印の旅に繰り出せるようになると思います。今後とも期待ください。

▼クローズアップでは今年度上半期に実施したイベント「九州新幹線のレールがつながる」（プレスリリース）、公式YouTubeチャンネルによる工事記録映像の初公開、㈱ユーグレナ社との連携協定などについて掲載いたしました。ワーキングレポートでは、今まさに札幌に向けてトンネル掘削中の北海道新幹線の小樽鉄道建設所の現状を紹介いたしました。

▼最近のテレビニュースでは、新型コロナウイルスによる感染が劇的に減少していることが話題となりました。ようやくコロナ禍の状況下が変化するフェーズに入ったのでしょうか？ 個人的には、速やかなコロナ禍での生活からの脱却を望んでおります。

▼「鉄道のある風景写真コンテスト」のグランプリ作品「2回目の春」が示している家族でお出かけできる環境が楽しいと感じられるような生活に戻った時に、鉄道や船舶が「旅」を支える重要な交通手段であることが見直されると思います。引き続き、JR-TTが実施する各種事業へのご理解、ご支援をお願いしたいと考えております。

▼今回ご紹介したYouTubeチャンネルでは、今後当機構事業と関係する「珍しい」「今しか見ることができない」画像を随時、公開していきたいと思っておりますので、ご意見などいただければ幸いです。宛先は当機構HP（広報課メール窓口）に投稿いただければ幸いです。（広報課長）